Bellmark Shimbun
ベルマーク新聞 11月号
2019年（令和元年）11月10日（日曜日）
発行　公益財団法人 ベルマーク教育助成財団　東京都中央区築地5-4-18　汐留イーストサイドビル7階　〒104-0045　電話 03-5148-7255（代表）
郵便振替口座 00100-7-56035　ホームページ http://www.bellmark.or.jp/

「身体をシャキッ」「ひざを前に」「笑顔で」

神奈川・伊勢原市立大田小でミズノ走り方教室

①②繰り返し走って正しいフォームを覚えます。少しずつフォームがよくなります　③笑顔で「全員走」

神奈川県伊勢原市立大田小学校（北島昌人校長・児童511人）で10月21日、「走り方教室」が開催されました。6年生88人が、「走り方」のコツを学びました。

コーチはミズノスポーツサービスの松岡遥介さんと小田中叡人さん。「松岡なので『修造コーチ』と呼んでくれてもいいです。今日は楽しくやりましょう」、「小田でもなく田中でもなく小田中です」と笑顔で自己紹介をしました。

まずは準備運動。1時限目で肌寒かったこともあり、しっかり身体を温めました。松岡コーチは「ちゃんと準備運動をするとケガの予防になるし、走りやすい身体をつくることができる」と、その大切さを伝えました。

正しい走り方を教わる前に、約25mを走って今の実力を計測しました。コーチは「どうやったら速く、かっこよく走れるでしょう？」と問いかけます。しかし、はっきりとした答えが返ってきません。6年生の体育を受け持つ木川直紀先生によると「この学年は運動に自信のある子が多い」そうですが、走り方を意識したことがないのかもしれません。

最初のポイントは「姿勢」。「手を下から上へのばし、バンザイします。空から手が引っ張られるような、あやつり人形のようなイメージで伸びたあと、元に戻すと、身体がシャキッとする」と松岡コーチ。こうすると、一度姿勢をリセットすることが出来ます。

次のポイントは「腕の振り方」。手はグーでもパーでも構いませんが、気を付けたいのは、グーの人は力を入れすぎないこと。姿勢が悪くなるからです。ひじは直角を意識し、後ろに引きます。

続いて、「足の使い方」です。ジャンプをして、地面から力をもらうことを体感したあと「次は、あえてかかとでジャンプしよう」とコーチ。すると力が入らず、あちこちからケラケラと笑い声が聞こえてきました。普通にジャンプをするときと同様、走るときにはかかとはつかないのです。同時に、ひざは出来るだけ伸ばします。

ポイントを押さえたところで、カラフルなマーカーを等間隔に置き、その間を1歩で走る練習をしました。コーチからは「マーカーを見ずに姿勢を意識して」「ひざを前に出すとスピードが出るよ」と次々とアドバイスが飛び出します。

そしてもう一度、25mの測定。「1回目の自分と競争しよう、早くなったか、かっこよくなったか、変化を感じ取ろう！」とコーチ。最後は「全員走」です。「笑顔で走ろう！」という呼びかけに、「イエ～イ！」と楽しそうな子どもたちでした。全員がスタートラインに横一列になり「位置について…よーい、ドン」の合図で一斉に走りました。一歩一歩が大きくなりのびのびと走ることが出来ました。

木川先生は「フォームがとても良くなりました。6年生は代表として授業を受けてもらったので、学んだことをぜひ家族にも伝えてください」と子どもたちに話し、北島校長は「専門的な方が『楽しく』教えてくれるのがいい。子どもたちがにこにこしながら走っていてよかった」と振り返りました。

◇

「教育応援隊」は、ベルマーク預金を使って、子どもたちが体験型の授業を受けられるプログラムです。「走り方教室」は特に人気で、大田小は3年連続申し込み、今回初めて開催出来ました。

台風・大雨被害、緊急友愛援助を募集

ベルマーク預金から寄付

今秋の台風・大雨で被災した学校を支援するため、ベルマーク教育助成財団は緊急の友愛援助を募集します。被災地の厳しい環境で「学び」を強いられている子どもたちに、温かい手を差し伸べてください。

友愛援助は、自分の学校・団体が持っているベルマーク預金を使って、現金として直接寄付できる仕組みです。いただいた資金は被災地の学校への支援に活用させてもらいます。財団HPのトップページ「お知らせ」欄のリンクから申込書をダウンロードし、郵便で財団までお送りください。2019年12月末日まで受け付けます。

9～10月にかけて相次いで日本に上陸した大型台風の15号と19号、さらにその後の台風21号の影響による大雨などで、日本列島は中部・東日本を中心に記録的な被害が出ました。被災した地域は数多く、全容はいまだにはっきりしていない状況です。

被災地の子どもたちに寄り添い、みんなが笑顔と元気を取り戻して、今までのように学べるようになることが、ベルマークの願いです。

子どもの写真募集

お買いものガイド表紙

「お買いものガイド」の表紙を飾る子どもたちの写真を募集します。ベルマーク預金で買った備品や遊具で、勉強したり遊んだりしている姿を送ってください。約1年以内に購入した品物が対象で、採用作品には謝礼1万円、不採用でも財団HP等で写真をご紹介させていただきます。応募はメール添付で「photo@bellmark.or.jp」へ。詳細はHPをご覧ください。

クモ見て「かわいい」、液体窒素に「おーっ」 理科実験教室

奈良県十津川村・十津川第二小学校

熊野本宮大社から車で30分ほど、川に沿って走ると奈良県十津川村に入ります。紀伊半島の中央部にある日本一面積の広い村。その96％が山で、世界遺産

になった熊野古道が通っています。

村立の十津川第二小学校（中西康廣校長、児童57人）は3つの小学校を統合した開校3年目の学校。そこでクモをテーマにした理科実験教室が開かれました。受講したのは3、4年生の25人。講師は日本蜘蛛学会会員のせきねみきお先生です。

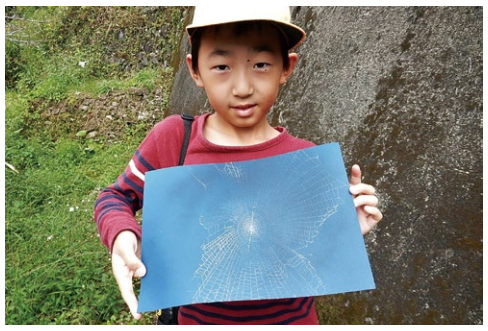
校舎前に集合した子どもたちに、クモの巣模様のバンダナを頭に巻いたせきね先生は「こんにちは！　スパイダーマン

の、せきね、です」と自己紹介。「クモって、実はいいやつなんだぞ」と、絵描き歌を歌いながらクモの絵を描きます。「クモと言えば、はちーっ」というのがポイント。クモは足が8本、目も8つ、さらに天敵はハチ……。

校門でジョロウグモを観察した後は空き地へ移り、巣の標本を採ります。途中で先生が実演。クモを逃がした後、巣に塗料と糊をスプレーし、黒い紙で網全体を移し取ります。そのころから、子どもたちの間でクモを見つけると「かわいい！」という声があがり始めました。

空き地で子どもたちはクモの巣を次々と見つけます。「これ、むっちゃ大きい」「あっ、破れちゃった」。巣を紙に移し取ったら「できた！　スパイダーマンに見せに行こう」。標本の次は、クモを捕まえて瓶に入れ、先生のところに持参して名前を教えてもらいます。いつの間にか、先生の前には行列ができました。

最後は教室に戻り、映像を見ながら話を聞きます。クモの糸は鋼鉄の5倍の強さがあること、クモの糸を応用して作った服が売り出されること、クモ同士を戦



わせる競技が日本やアジア各地で行われていること……。授業の締めはこの言葉でした。「地球は美しいクモでいっぱいだ！」

みんな、今まで何となく敬遠していたクモへの印象が変わってきたようです。4年生の稲田陽菜（ひな）さんは「クモは苦手だったけど、すごいんだなと思った。標本を作るのが楽しかった」と話してくれました。

せきね先生によると、この日確認できたクモは7科13種でした。

岐阜県下呂市・東第一小学校

岐阜県下呂市立東第一小学校（細江幸次校長）で10月16日、「理科実験教室」が開かれました。ベルマーク財団が1999年から続けているへき地校支援のプログラムで、今回が通算230回目。講師は、

全国を回って理科実験の楽しさと驚きを届けているNPO法人「サイエンスものづくり塾エジソンの会」(華井章裕代表)の6人です。

学年混成の4班に分かれた全校児童43人を前に「まずは、お遊び」。笑顔の華井さんの手から、次々とペンシルバルーンが放たれ、歓声が上がります。続いて丸い風船がフワフワ。そしてパチン！と割れます。風船にぬった「魔法の液」がパチンの秘密。「ワー！」「キャー！」「こっちに飛ばして！」もう大騒ぎです。

この日のメインは－196℃の液体窒素による低温の世界の探検。ピンクの花を漬けると、一瞬でパリパリに凍り、手でもむと粉々になります。バナナは釘が打てるほどに硬く凍ってしまいました。

「次は風船を漬けてみます。どうなると思う？」。「割れる」「コチコチになる」「膨れる」「しぼむ」……。実際の風船はいったんしぼみ、その後だんだん膨らみました。風船の中の空気の成分が液体や固体になって体積が減り、また気体に戻って膨らんだのです。「おーっ」。どよめきのような驚きの声が響きます。

ティッシュペーパーは、液体窒素に漬けても変わりません。「水分がないから」。子どもたちの中から声が上がりました。プラスチックのボールを冷やして落としたら、ガシャンと割れました。冷やすことで弾性がなくなり脆くなったのです。

続いて子どもたちの出番。花、葉っぱ、スギの葉、ナンテンの実、イチジク……事前に用意した〝冷やしてみたいもの〟を持って一人ずつ液体窒素にチャレンジします。

授業の後半は工作コーナー。エジソン

の会が用意したキットを使って「ビー玉万華鏡」「くるくるレインボー」を作ります。前半が盛り上がりすぎて、講師たちもあせり気味でしたが、何とか時間内に作ることができました。

「凍ったカキの葉っぱをつぶした時のパリパリ感と冷たさが面白かった」と6年生の長谷美冬さん。同じ6年の田口優衣さんも「工作は難しくはなかったけど、教えてくれる人も一緒になって楽しくできました」と話してくれました。

ベルマーク便りコンクール、入賞決まる

2019年度は過去5年で最多の114校が応募

ベルマーク活動を学校の内外に伝える印刷物などを対象にした「ベルマーク便りコンテスト」の 2019 年度の入賞作が決まりました。

今年度は、過去 5 年で最多の 114 校からの応募がありました。財団職員 10 人が審査にあたり、優秀賞 10 校、佳作・特別賞各 6 校を選びました。優秀賞には 3 万円、佳作と特別賞には 1 万円をお送りします。惜しくも受賞を逃した学校には 2000 円の図書カードを参加賞として送ります。

来年度も実施しますので、いまから準備して、ふるってご応募ください。今年度の入賞校は次の通りです。

葉山町立葉山小学校

堺市立登美丘西小学校

●優秀賞

札幌市立あいの里東小学校	（札幌市北区）
葉山町立葉山小学校	（神奈川県葉山町）
那覇市立小禄小学校	（沖縄県那覇市）
柏市立中原小学校	（千葉県柏市）
聖ミカエル幼稚園	（札幌市東区）
堺市立登美丘西小学校	（堺市東区）
さいたま市立大久保小学校	（さいたま市桜区）
二日市カトリック幼稚園	（福岡県太宰府市）
大阪市立常盤小学校	（大阪市阿倍野区）
相模原市立九沢小学校	（相模原市緑区）

●佳作

小田原市立足柄小学校	（神奈川県小田原市）
高千穂町立高千穂小学校	（宮崎県高千穂町）
入間市立高倉小学校	（埼玉県入間市）
堺市立登美丘東幼稚園	（堺市東区）
札幌市立山の手南小学校	（札幌市西区）
和歌山市立宮北小学校	（和歌山市）

●特別賞

松戸市立旭町小学校	（千葉県松戸市）
狛江市立緑野小学校	（東京都狛江市）
長浜市立長浜小学校	（滋賀県長浜市）
大河原町立大河原小学校	（宮城県大河原町）
板橋区立上板橋第二小学校	（東京都板橋区）
北島町立北島南小学校	（徳島県北島町）

札幌市立あいの里東小学校からは便りと一緒にたくさんの配布物が

みんなで挑戦！一輪車のテクニックを磨いたよ！

山口県岩国市・周北小学校・修成小学校

彼岸花があちこちで揺れる9月30日、山口県岩国市の西南にある市立周北小学校、同修成小学校の2校が一輪車講習会を受講しました。児童数は周北小が7人、

修成小は17人。どちらも一輪車に積極的に取り組んでいる学校です。

会場は修成小。校庭の真ん中に大きな楠の木がそびえています。「今日に備え、みんなやる気で練習してました」と修成小の清水聡美校長。午前10時まえには周北小の児童たちも到着。いよいよ講習開始です。講師は世界大会優勝経験のある、おなじみの鈴木奈菜さんと須郷真弥さんです。

まずは技の紹介から。補助なし乗車、アイドリング、片足走行……。両校とも

少々自信を持っている子が多く「できる、できる！」との声が。「じゃあ、これは？」。片足走行中の須郷さんは、ペダルをこいでいない方の足を前方にすーっと伸ばしました。姿勢もよく、とてもきれいなフォルムです。「ええっー」と子どもたち。披露される技は次第に高度になり、自然と拍手がわきました。

ペアの模範演技をはさみ、実習へ。しばらくすると、周北小の木村真彦校長が、自ら初心者グループの先頭を走り始めました。子どもたちも喜んで後についていきます。一方、中級者グループは個々に技への挑戦を続け、次々と成功させていきました。

講習を終えると、全員整列。周北小の木村校長が「どうだった？　ただ『すごいな』と思うのか、一歩でも近付こうと思うのかで、何年か後に得られる結果が違います。それは勉強でも同じです」と語りかけました。児童の代表が「6年間やってきたけど知らないことがいっぱいありました」「横乗りやジャンプ乗りができる

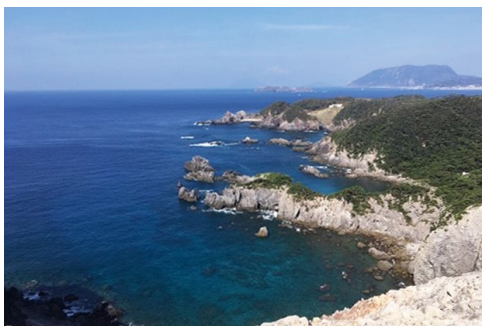
ようになりました」と感謝の言葉を述べました。

両校長とも強調したのは「本物」をじかに見ることの大切さでした。「目の前で見れば迫力が違う。今日のことは、きっと子どもたちの将来に役立ちます」。講習会は地元紙やテレビ局も取材に訪れ、子どもたちや講師にインタビューしていました。

この日は給食も両校合同。当番の子がメニューにある小松菜の由来などを一生懸命に説明し、みんなで「いただきます！」。講習中とはまた違った笑顔がはじけました。

東京・式根島小学校（日教弘主催）

東京・竹芝桟橋（さんばし）から高速ジェット船に乗り込むと、3時間10分で伊豆諸島の式根島に着きました。東京から南に約160キロ。新島の南西に位置する周囲12キロほどの小さな島です。人口は約520人。漁業が中心で、アシタバなどの栽培も盛んです。美しいリアス式海岸



や海中温泉が知られています。

今回の一輪車講習会は、10月3日に東京都新島村立式根島小学校で開かれました。主催したのは、学校の先生たちでつくる公益財団法人「日本教育公務員弘済会（日教弘）」。2016年度から一輪車講習会を始め、今年度は8都県14校で開催しています。この日の講師は、日本一輪車協会の公認指導員の鈴木奈菜さんと須郷真弥さん。2人とも国際大会で優勝経験がある元トップ選手です。

講習会はまず、2人の模範演技で始まりました。体育館で32人の全校児童が見守るなか、けり上げ乗車や片足走行、連続スピンなどの技を次々に披露してい

きます。児童からは「えー。すごい！」の声。曲に合わせたペア演技では、詰めかけた児童の父母らも盛んに拍手を送っていました。

続いて実技指導。タイヤの空気圧は大丈夫か、サドルと一輪車本体の向きが合っているか、サドルの高さはおへその

少し下、ペダルに乗せる足の位置は土踏まずではなく、指がペダルから少し出るくらいの足の一番広い部分。そうした注意の後に、いよいよ練習です。

補助なしでは乗れない児童は、ステージに片手をついて一歩ずつ前進。一方、すでに乗ることができる児童は、少しレベルが上の技に挑戦します。真っ直ぐにしか乗れなかったという4年生の宮下桃榎（ももか）さんは「姿勢をよくするように言われてやったら、一人で曲がれるよ

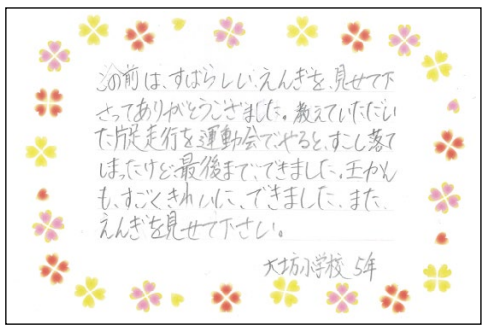
うになった」と声を弾ませました。片足アイドリングと横乗りに何度も挑戦していた5年生の高久心暖（こはる）さんは、両方の技とも何度か成功させました。「難しいけれど、分かりやすいアドバイスのおかげで何とかできた」とうれしそうでした。

大野正雄校長は「子どもたちは月1回のクラブ活動や昼休みに練習しているが、指導は難しかった。きょうはすごく丁寧な教え方で、子どもたちもみな楽しかったと言っていた」と話しました。

「一輪車、教えてくれてありがとう！」

和歌山の大坊小、山口の周北・修成小から手紙

この秋に一輪車講習会を実施した小学校から、ベルマーク財団にお礼の手紙が相次いで届きました。



和歌山県田辺市立大坊（おおぼう）小学校（玉井朋子校長）は9月4日に一輪車講習会を開催。そこで鍛えた技を9月21日の地域の運動会で披露しました。「王冠」や「バックメリーゴーラウンド」といった技を見事に成功させたそうで、その“晴れ姿”の写真も同封されていました。

子どもたちからのメッセージには、技を成功させた誇らしげな報告とともに、講師の鈴木奈菜さんと髙田朝日さんに「また来てください」「またえんぎを見せてください」という呼びかけがつづられていました。

9月30日開催の山口県岩国市立周北小学校（木村真彦校長）、同修成小学校（清水聡美校長）からは、両校長先生連名のお礼状が。「できないと言わないことや

あきらめない気持ち、そして正しい姿勢の大切さは、すべての練習の基本となることが子どもたちにわかりやすく伝わり、意欲的に取り組むことができました」と書かれていました。

両校児童全員からのメッセージもありました。「うまくなったようなきがします」「せんせいとってもすごかった」「スピンができるようになりたいです」などの言葉が、講師の鈴木奈菜さん、須郷真弥

さんと撮った記念写真を囲むように書きこまれていました。

カートリッジは手作業でリサイクルへ

エプソン製品の仕分け担当「エプソンミズベ」

①カートリッジは人の手で分類
②諏訪湖近くにあるエプソンミズベ本社
③緑色のICチップを取り出します
④作業をしていた平林昌也さん。昨年のアビリンピック（全国障害者技能競技大会）全国大会で、金賞を受賞しました

使用済みインク・トナーカートリッジにベルマーク点数を付与している協賛会社のエプソン販売（ベルマーク番号73）。集まったカートリッジは、長野県諏訪市の「エプソンミズベ」という会社で集約・仕分けしています。10月初旬、同社を訪ねました。

社名のとおり諏訪湖近くに本社・湖畔工場があります。ここを含め県内に７拠点あり、社員数は185人、うち139人が障がいのある人です（2019年6月1日現在）。親会社のセイコーエプソンが、障がい者雇用を促進するため1983年に設立した「特例子会社」です。

インクカートリッジは、一箱ずつ手作業で取り出し、他社製の製品が入っていないか目視で確認。そして製品別バーコードと照らし合わせていきます。その数は200～300種類も。作業していた平林昌也さんは「間違わないように慎重にすること」を徹底していると言います。

こうして受け入れたカートリッジは、別の部屋で分類されます。台車１台に36個の回収箱が載りますが、おおよそ１日に２台のペースでこなします。その後、キャップは洗浄して再利用、ICチップからは貴金属が回収され、プラスチック素材は社内向けのコンテナや建材などに生まれ変わります。

同社の業務は、他にも時計部品の組み立てや基盤のはんだ付け、名刺やIDカード作成、資料の電子化、印刷や製本、ビルクリーニングなど多岐に渡ります。「バリエーションを多く設け、社員の特性を活かしやすくしています」と管理部長の荒井孝昌さん。障がいによって異なる「ストレングス（強み）」を活かそうとしているのです。諏訪事業部の宮坂礼二さんによると「信じられないくらい長時間、一つのことに集中して取り組める社員もいる」とのこと。昨年のアビリンピック（全国障害者技能競技大会）全国大会では、5人の社員が出場し、金賞2、銀賞と銅賞各1という素晴らしい成績を収めました。

ベルマーク運動で集められたインクカートリッジは、こうした人の手によって、貴重な資源として大切に扱われていました。環境保全につながるリサイクル活動の輪を広げる大きな力になっていると感じました。

ものづくりの「歴史」と「最先端」を学ぶ

セイコーエプソン本社事業所を見学しませんか

協賛会社のエプソン販売（ベルマーク番号 73）の親会社、セイコーエプソンが館内見学を受け付けています。長野県諏訪市の本社事業所内にある「ものづくり歴史館」と、ほとんど水を使わずに紙を生産できる PaperLab（ペーパーラボ）を見学出来ます。

ベルマーク運動での「エプソン」といえば、インク・トナーカートリッジやプリンタを思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、同社は 1942 年創業の、長い歴史を持つ「ものづくり企業」なのです。腕時計、プリンタや製紙機、プロジェクターやメガネをかけて映像を楽しむスマートグラス、産業用ロボットなど、多種多様の商品について学ぶことが出来ます。

続いて、PaperLab が置いてあるアップサイクルセンター。「アップサイクル」とは、不要になったものの特徴を活かしながら、新たなモノを作り出すことです。不要なものを一度資源に戻すリサイクルや、使ったものを繰り返し利用するリユースとは違う概念です。

PaperLab は、使い終わったコピー用紙などを材料に、水や新たな木材をほとんど使わず再生紙を作り出す「乾式オフィス製紙機」。材料になる用紙は繊維になるまで分解されるため、セキュリティー面での心配もありません。出来上がった再生紙は、真っ白な紙に比べて柔らかな感触で、目に優しい色味が特徴です。

見学についての詳細はエプソンの HP をご覧ください。

◆セイコーエプソン本社は、環境に優しい高速インクジェット複合機「LX-10000F」と PaperLab を合わせて使い、オフィス内の紙資源循環を実現しています。

㊤懐かしのハンディカラオケ「まめから」も同社製品
㊥ものづくり歴史館にはリサイクルの説明も
㊦世界初の宇宙に飛び立ったプリンタ

地震被害の早来中にマーク寄贈

北海道キリンビバレッジ、復興キャンペーンで収集

協賛会社キリンビバレッジ（ベルマーク番号54）の商品を北海道で販売している北海道キリンビバレッジ（本社・札幌市）は、ベルマーク4万3932点を9月26日、昨年の北海道地震の被災校、安平町立早来中学校に寄贈しました。

同社は北海道で今年5月13日から6月27日まで復興キャンペーンを実施し、ベルマークを集めました。贈呈式では同社流通本部の渡辺昌彦本部長が「復興支援をしたいという北海道のみなさんの思いが詰まっているベルマークです。復興に向けて少しでもお役に立てれば幸いです」と述べ、目録を木村義人校長に手渡しました。木村校長からは、渡辺本部長に感謝状が送られました。早来中は10月に野球用品などを購入しました。

小笠原伴行教頭によると、早来中の現在の生徒数は96人。プレハブ校舎は耐寒仕様ですが夏は室温が上がり、教室の簡易エアコンでは限界があって困ったそうです。町では新校舎は早来小と一体化させて作る計画ですが、引っ越しは2023年1月になる予定です。

早来中の木村義人校長（右）と、北海道キリンビバレッジ流通本部の渡辺昌彦本部長

純金「NEWクレラップ」を目指して真剣勝負

第2回純金「NEWクレラップ」クレハカット選手権、全国から14人が競う

①左からキチントさん、ゆりやんさん、ザッキーさん、クレハの小林豊社長
②決勝戦の様子。ザッキーさんは大会記録を出しました
③小林豊社長とじゃんけんで勝負
④純金製ミニチュアサイズNEWクレラップ（クレハ提供）

「第2回NEWクレラップクレハカット選手権」決勝大会が10月19日にKITTE丸の内1Fアトリウム（東京都千代田区）で開かれました。協賛会社のクレハ（ベルマーク番号10）主催で、制限時間30秒でいくつの食器にラップをかけられるかを競います。東京、福岡、名古屋、大阪、仙台での地区予選を経て、グランプリの賞品、100万円相当の純金製ミニチュアサイズNEWクレラップを目指し、14人が真剣勝負を繰り広げました。

ルール説明では、NEWクレラップにベルマークが付いていることが紹介されました。司会者は「はさみがなくてもベルマークを切り取ることが出来ます」とアピール。「クレハは1996年からベルマーク運動に参加しています。お近くのスーパーやファミリーマートの回収箱に入れてください」と呼びかけました。

さあ競技開始。選手はみな緊張した面持ちです。2人ずつ舞台にあがり、指定の位置に両手を置いて構え、時報のような音を最後まで聞き終えてからラップをかけ始めます。審査は目視だけでなく、ビデオでも撮影されており、まるでオリンピックのようでした。

皆さん、さすが予選を勝ち抜いてきただけあって、スパッ！スパッ！と気持ちよくカットしていきます。しかし、気持ちが焦ったためにラップが巻き戻ってしまい、ケースから出して必死に直そうとする場面もあり、観客からは声援が響きました。

熱戦の結果、31個の記録を出した東京代表のザッキーさんがグランプリになりました。これは予選大会も含めての最高記録。準グランプリになった大阪代表のゆりやんさんは21個でした。

ザッキーさんの練習には奥様も協力し、仕事を終えて帰ると、テーブルにラップとお皿が用意されていたそうです。ゆりやんさんは「気をつけたのはカチッと音がするまで、窓から覗くクルリちゃんから目を離さないこと」と話しました。

クレハの小林豊社長は表彰式で「この大会は『NEWクレラップ』の魅力を知ってもらえるよう、企画しました。来年はオリンピックがありますが、それに負けないように、クレハカット選手権も続けられたら」と、意欲を示しました。

表彰式の前には、「○×クイズ」と「じゃんけん大会」があり、大いに盛り上がりました。じゃんけん大会では、小林社長と勝負。勝ち残ったのは、普段「NEWクレラップ」を使っているという、偶然通りかかった方でした。

「赤箱のある毎日」インスタグラムに投稿を

牛乳石鹸共進社が「#赤箱女子」キャンペーン

協賛会社の牛乳石鹸共進社（ベルマーク番号37）がインスタグラムを使ったキャンペーンを実施中です。指定の応募方法で、「赤箱のある毎日」を投稿すると、抽選で毎月5名様に素敵な景品が当たります。

【応募方法】

①インスタグラムアカウント「@cowakacp（カウブランド赤箱【公式】）」をフォロー②「赤箱のある毎日」をテーマに写真撮影③写真に「@cowakacp」をタグ付けし、ハッシュタグ「#赤箱女子」を付けて投稿

【応募期間】

2020年3月まで、毎月抽選が行われます。

【景品】

毎月5名様が当選。景品は月によって異なります。

【応募について】

非公開のアカウントや応募方法と異なる投稿は対象外。同一の写真を複数投稿した応募は無効です。景品の発送先は国内のみです。

【当選した場合】

当選者にはダイレクトメッセージで通知が届きます。指定の期限までに景品のお届け先や必要事項を、メッセージ内の入力フォームから登録してください。7日以内に登録がなかった場合は当選無効となります。

※赤箱公式アカウント「@cowakacp」のフォローを外すと、当選連絡のメッセージが送れなくなるので、フォローは外さないようにしてください。キャンペーンについての詳細は、牛乳石鹸共進社のHPをご覧ください。

厚真中央小から感謝のDVD届く

先生と子どもたちで企画

昨年9月の北海道地震でベルマーク財団から支援した学校のひとつ、厚真町立厚真中央小学校（児童150人）の池田健人校長から「笑顔で前へ～感謝を込めて～」と題するDVDが届きました。学校をサポートしてくれた人たちへの「恩返し」なのだそうです。

最初に透明ケースに入った稲穂が映ります。稲作体験先だった農家から、地震で子どもの手による収穫ができなかった代わりにと届けられたものです。

続いて、被災後の学校生活を写真で振り返ります。全国から届いた手紙や寄せ書き、俳優の生田斗真さんやプロ野球日本ハムの栗山英樹監督らが訪問した様子、今年4月の入学・進学。そして、子どもたちが学年ごとに声をあわせ、バトンをつなぐようにメッセージを語ります。「全国のみなさん、たくさんの励ましをありがとうございました。私たちはこんなに元気になりました。これからも笑顔を大切に一歩一歩前に進んでいきます」

地震から1年の9月6日に開かれた「感謝の集い」に向け、被災以降の出来事をプラスに振り返ろうと、先生と子どもたちで企画して映像を作りました。そこに「集い」での合唱などを加えたのがこのDVDでした。池田校長は「今後つらいことがあったら、たくさんの人に支えられたことで乗り越えてほしい」と話しました。

笑顔と出会いと――豊橋まつりでベルマークPR

600人超す訪問者がクイズなど楽しむ

①協賛会社からのプレゼントが並ぶ
②マークを持ってきたよ
③クイズ、解けるかな？
④ラッキーベルの脇川雅之さん
⑤ベルマーク PR ブースのスタッフたち

愛知県豊橋市で10月19、20日に開かれた「第65回ええじゃないか豊橋まつり」のイベントのひとつとして、市庁舎東館１階に20日、恒例のベルマークPRブースが登場しました。マークを持参したりクイズに参加したりするとプレゼントがもらえるブースです。

スタッフには豊橋市のベルマーク大使・岡田太絵子さんをはじめとする市教育委員会教育政策課のみなさんと、ボランティアとしてジブラルタ生命保険（ベルマーク番号15）のベルマーク大使・松本哲さん、あいおいニッセイ同和損害保険（同92）三河支店豊橋支社の方々、それにラッキーベル（同03）のベルマーク大使・脇川雅之さんらが顔を揃えました。松本・脇川両大使はブースへの呼び込み担当です。

開場の午前10時から、ブースは多くの人でにぎわいました。特にクイズコーナーは大混雑。300枚用意した解答用紙は増刷し、プレゼントを入れるために用意したベルマーク財団のエコバッグも午前中でなくなる盛況ぶりでした。

ブースの回収箱に一番にマークを入れたのは小学2年の松崎琥太くん。お母さんの理恵さんによれば「小学校でマークを集めていて、今日はたまたまマークを持っていた」とのことで、プレゼントをもらって笑顔を見せていました。

思わぬ出会いもありました。呼び込みに反応してブースに駆け寄ってきた豊橋市立飯村（いむれ）小6年の山口碧泉（あおい）さんと加藤瑠唯さんです。同小は今年5月からベルマーク運動に参加し、10月から先生の提案で子どもたち自身でも活動を始めたところで、2人とも当事者の児童会委員でした。いい機会だと、松本大使に色々と尋ねていました。

豊橋市は2016年から「ベルマーク日本一！プロジェクト」を掲げて活動しています。この日のブースは、プレゼントがなくなった午後3時半で終了。親子連れを中心にのべ600人超が訪れました。

【プレゼント等を提供した協賛会社＝（）はベルマーク番号】ラッキーベル（03）、エスビー食品（09）、クレハ（10）、ジブラルタ生命保険（15）、岩塚製菓（16）、キヤノンマーケティングジャパン（19）、ブラザー販売（28）、成田食品（36）、ブルボン（48）、ナカバヤシ（52）、ショウワノート（53）、クツワ（55）、マルトモ（64）、スミフルジャパン（70）、あいおいニッセイ同和損害保険（92）、マルニ（95）

「仲間がいい」岡崎・火曜会40年

仕分けボランティア、危機を乗り越えて

ベルマーク大使・三田靖子さんが会長をつとめる愛知・岡崎市の「火曜会」は、ベルマークの仕分け・集計ボランティア活動をしています。結成は1980年。活動を始めてから40年を数えます。会長の三田さんやメンバーの方々に近況を伺いました。

発足当時3人だった会員は、現在15人。長く続けている女性が多い中、最近では男性2人が加わりました。昨年度までに仕分けた点数は、統計を取り始めてからの累計で3462万点になります。

毎週火曜日の午前10時から、市のボランティアセンターがある福祉会館で作業します。三田さんは仕分け途中のマークが入った段ボール箱を見せてくれました。「これが私たちの全財産よ」

仕分けは大きな透明袋を使い、まずベルマーク番号の10番ごと、それから会社別に分けて集計します。市内で集めたマークは児童養護施設などに寄贈しています。

そんな会に今年、危機が訪れました。ボランティアセンターが福祉会館から4キロほど離れた市勤労文化センターへ移転する話が持ち上がり、火曜会も活動拠点の引っ越しを迫られたのです。三田さんは「移転すれば通いづらくなり、メンバーが減るかもしれない」と会の解散を提案。でも会員から「辞めてしまうのは寂しい」「火曜日に行くところがなくなってしまう」と訴える声が次々と上がり、解散はとりやめになりました。

とはいえ、来年の4月には福祉会館から出る必要がありそうで、その後の活動場所は未定です。会員の高齢化も悩みで、若い人の獲得も課題。その一方で、今年の運動説明会でテトラパックが点数になると知り、すぐ個々で集め出すなど、行動力はさすがです。

「１人でも多くの人がマークを集めてくれれば」と三田さん。和やかな中にも芯のある活動をされている火曜会のみなさん、今後もよろしくおねがいします。

㊤前列右から三田靖子さん、樋口行子さん、後列右から、矢藤純子さん、森昭子さん
㊦三田さんが「全財産」と言うダンボール箱

「釜木ブック」10年間の活動記録

記念ファイル、財団に届く

ツイッターのベル・ブックさんとしても知られるベルマーク大使・釜木尚美さんが、これまでの活動をまとめた「別府小ベルマーク10周年記念ファイル」を作成し、ベルマーク財団に送ってくれました。

A4判のクリアホルダー、58ページに及ぶ力作。1日１つのネタが365日分詰め込まれた「ベルマークカレンダー」に始まり、児童も読めるよう工夫された手書きのベルマークだよりや、年表などが収められています。

釜木さんの活動の拠点は大阪府摂津市立別府小学校。以前、同校の図書司書として勤めていました。仕事を辞めたあとも別府小のためにマークの仕分け・整理をし、貯めた預金で図書室の本を買っています。「図書館の中の本の１冊として、長く親しんでもらいたい」という願いを込めて作ったそうです。

読めば読むほどクセになる釜木ワールド。見学等でベルマーク財団にお越しの際には、ぜひご覧ください。

7校一緒に被災校支援「にじの風プラン」

統合前に瀬戸市の小中学校、マーク収集

愛知県瀬戸市で2020年に統合される７つの学校（祖母懐小・東明小・古瀬戸小・深川小・道泉小・祖東中・本山中）が一体となってベルマークを集め、東日本大震災の被災地校に希望の品を贈る計画を進めています。題して「にじの風プラン・７校の力をひとつに！」。きっかけとなったのは、地元ＦＭ局のパーソナリティーの活動でした。

名古屋から北東に約20キロにある瀬戸市。「瀬戸焼」の名で知られた古くからの陶磁器の産地で、窯を持ち作陶の授業がある学校もあります。

統合は少子化による児童生徒数の減少が理由。来年4月に市立の小中一貫校「にじの丘学園」が新発足します。その学校名の一部を取った「にじの風プラン」が始動したのは昨春でした。

提案者は祖東中の生徒に本の読み聞かせ活動をしている伊藤由美さん。親子3代にわたる同校卒業生です。7校の中にはベルマーク運動の未参加校や活動休止中の学校もありましたが、打診したところ、みな賛成してくれました。

7校の各教室や職員室、学区内の公民館に回収箱を置き、集まったマークは祖東中に集約。校長室でボランティアが仕分け・集計しました。毎月7日を「にじの風Day」として啓発活動もしました。地域の高齢者が、集めたマークを近所の子に託して届けてくれたこともあり、伊藤さんは「地域の人が気軽に学校とつながることができました」と話します。

左から早川寿校長、伊藤由美さん、古舘満根教頭、高橋智子さん

この活動を伊藤さんが思いついたきっかけは、街で東日本大震災支援のベルマーク回収箱を偶然発見したことでした。それが、瀬戸市のコミュニティーFM「ラジオサンキュー」でパーソナリティーを務める高橋智子（ちえこ）さんが2013年から始めた活動、「ちー姉のベルマーク大作戦」でした。

高橋さんは、番組でベルマークを集めるよう呼びかけています。仕分けと集計はリスナーのラジオネーム「山田２号」さんが担当。集まったマークは、瀬戸市職員が現地に出向した縁で、宮城県東松島市の市立矢本東小に寄贈しています。高橋さんは過去６回現地を訪問し、合計7万点以上を手渡してきました。「マークを集めることが大きな力になることを、矢本東小の子どもたちも感じていると思います」と高橋さん。

7校合同の「にじの風プラン」も寄贈先を矢本東小とし、集めたマークで同校が希望する品を購入することにしました。今年度の１学期分でマークの集計を終えましたが、その合計は９万点超。年度内には贈呈する予定です。

祖東中の早川寿校長は、この活動で人と人のつながりが新たに生まれたことを感じたそうです。仕分け・集計にも参加した古舘満根教頭は「絆や地域の力に希望を持っています」と話します。

「ちー姉のベルマーク大作戦」は毎週木曜午後の放送で、ベルマークの情報を発信しています。もちろん「にじの風プラン」についても。取材日は高橋さんもスタッフと祖東中を訪れ、校長・教頭や伊藤さんにインタビューしました。

長野でへき地教育研究大会

山村留学生が過半数の北相木小を見学

第68回全国へき地教育研究大会（文部科学省、長野県教育委員会、全国へき地教育研究連盟など主催）が10月10、11の両日、長野県で開かれ、全国のへき地校や複式学級がある学校、小規模校の教師ら1000人余が参加しました。10日は上田市で全体会があり、アトラクションとして市立西内小学校の金管バンドが演奏しました。

11日は県内10会場で公開授業。その中で、群馬県境に位置する北相木村の村立北相木小学校（大日方良彰校長）を訪れました。この村は標高約1000m、面積の91％は山林です。人口は約750人。児童数確保や村の活性化を図る目的で1987年から始めた山村留学事業が注目されています。

当初は全校児童数66人、うち山村留学生は6人でした。都会からの移住を受け入れる「Iターン」にも力を入れ、2001年には児童数が82人に。しかし、その後は留学生確保の難しさなどから、2010年には児童数は27人にまで減ってしまいました。

そこから取り組んだのが今の事業です。連携していた民間団体が撤退したため村直営に切り替え、別の村で山村留学に携わっていた指導員を迎え入れました。また、2011年度から民間学習塾「花まる学習会」（本部・さいたま市）と提携し、思考力や自己肯定感の向上をめざす特色のある授業を取り入れたことで、留学希望者は大幅に増えたそうです。さらに2015年度からは1・2年生を対象に親と一緒に公営住宅に移り住む「親子留学」もスタートさせました。

その結果、今年度の児童数61人のうち、山村留学生は32人と半数以上に。首都圏だけでなく、関西や遠くは沖縄からの留学生もいるそうです。ゲームもテレビもない山村留学センターで共同生活を送る留学生が19人、親子留学が13人。地元の児童もIターン家庭が多くを占めているそうです。

この日の1校時は、同校が取り入れた「モジュール学習」と呼ばれる15分間の授業が公開されました。3年生は最初の3分間、立ってモニター画面を見ながらテンポよく詩や短文、ことわざ、百人一首などを全員で声を合わせ、メリハリをつけて音読します。次の3分間は一転して机に向かい、余りの出る割り算30問に挑戦。続いて先生が暗算のカードを次々に示し、1人ずつ瞬時に答えていきます。「発散と集中」を交互におこなう独自の方式で、15分間はあっという間に過ぎていきます。

5年生の「英語モジュール」でも、「動と静」が交互に取り入れられていました。どちらの教室も、児童たちはみな笑顔で、やる気に満ちていたのが印象的でした。

2校時は6年生の英語の授業を参観。北相木村の好きなところやほしいものなどを英会話で伝え合い、「夢の北相木マップ」の作成を試みました。

この後、体育館でアトラクションがあり、20数人の児童たちが太鼓を持って沖縄のエイサーを披露しました。山村留学センターに沖縄出身の指導員がいて、伝統芸能活動のひとつとして取り組んでいるそうです。

㊤英語モジュールで英文を書く5年生
㊥北相木村について英語でグループトークする6年生
㊦エイサーを披露する北相木小の児童たち

生徒会の力で累計300万点を達成

長野・諏訪市立諏訪中学校

長野県諏訪市にある市立諏訪中学校（西尾ひと美校長、生徒数268人）のベルマーク点数が、8月に累計で300万点を突破しました。運動参加は1973年。46年かけて地道に積み上げました。活動の主体は生徒会です。

学校を訪ねたのは委員会活動の日。福祉、放送、給食、校風などの委員会が放課後に一斉に活動します。生徒たちが教室に集まり、いよいよ活動が……と思いきや、筆箱を置いたあと、また廊下へ出て、中庭に面したベランダに立ちます。その中庭で一人の生徒が指揮を始め、なんと校歌斉唱が始まりました。活動の初めに校歌を歌うのが諏訪中の流儀だそうです。

それから委員会に。ベルマークを担当する福祉委員会（21人）は、9月末にあった「梶の樹祭」（文化祭）の反省をした後、マークの仕分けをしました。活動は月に2～3回、1回につき約20分と限られていて、仕分けの時間が十分に確保できないのが悩みだといいます。それでも昨年度は11万2012点分のマークを財団に送りました。「全校生徒から有志を募って、朝7時30分からみんなで仕分けをしたことが良かったんだと思います」と西尾校長は振り返ります。

ベルマーク活動は、元々は購買委員会の仕事でした。生徒会の組織改編で購買委員会が廃止され、今年度からアルミ缶や古切手等の収集をしていた福祉委員会が資源回収活動の一環としてベルマークを引き継ぎました。委員長の花岡来美（くるみ）さんは「自分たちが集めた資源物で被災地などの人を助けられること」がこの委員会の魅力だと言います。また副委員長の野口尚哉さんは「全校の皆さんが協力してくれて、人を助け合えること」と話します。

委員会では毎年「資源回収ご協力のお願い」というプリントを地域に配布します。担当地区の割り振りやプリント配布、実際の資源回収もみな生徒たちの手で行います。収集物を増やすため、学校の昇降口に収集箱を用意して呼びかけをする「福祉収集ウィーク」も、この上半期に3回ほど実施したそうです。

西尾校長は、「福祉委員が集めている缶や瓶は市町村でも集めているが、ベルマークを集めているところは近隣にはないと思う。だから諏訪中が集める意義がある」と話しました。さらに自身についても「習慣でついついマークを切ってしまうんですよね」と笑顔で語りました。

㊤福祉委員会のみなさん
㊥活動前に全員で校歌斉唱。ベルマークではよくラジカセを買います
㊦みんなでベルマークを仕分け

アンケートへの協力、お願いします

日頃ベルマーク運動に携わる方にアンケートのお願いです。毎年度初めの5～6月に全国で実施する運動説明会について、そして財団の今後の活動に向けてのご意見・ご要望をお聞きいたします。

ベルマーク委員長などの代表者だけでなく、活動に携わっている方ならどなたでもお答えください。1校あたり何人でも結構です。

回答は12月31日まで受け付けます。参加団体にはお買いものガイド2019後期号とともに回答用紙をお送りしていますが、アンケートフォーム（財団HPからも入れます）に入力し、そのまま送信することもできます。ご協力よろしくお願いします。

【アンケートフォームへの ＱＲコード】

ベルマーク寄贈者・友愛援助リスト（敬称略）

〈震災寄贈〉 9月21日～10月20日

▼北海道　髙橋明美　里見順子▼青森県　蝦名洋子▼岩手県　佐々木とし子▼秋田県　松本恵里子▼山形県　村山千里▼福島県　渡辺由美子▼茨城県　斎藤マサ子　神栖市社会福祉協議会鐘の会▼栃木県　吉賀真理子　西村薫子　鹿沼市立北犬飼中学校▼群馬県　館林土木事務所▼埼玉県　梅田直美　田原純子　松崎いずみ　服部由美子　木下雅子　横須賀恭子　匿名希望▼千葉県　関田元子　田村明子　山本清美　宍倉洋介▼東京都　今川文子　小野寺美香　宝醤油㈱経営企画室企画部営業企画課　水谷恭仁子㈱アンセム　川上洋一　花井紘子　宮崎祥子向美恵子　山田こずえ　中央区立有馬幼稚園日本基督教団小金井緑町教会　匿名希望▼神奈川県　ZFオートモーティブジャパン㈱　渡辺友美　tiniskanagawa　中山朋美　柿沼惠子坂巻順子　渡会恵　田中宏▼石川県　市原マリコ　太田▼山梨県　㈲オートボディショップワタナベ▼岐阜県　井貝美奈　岐阜県JAビジネスサポート㈱▼静岡県　小久保里枝　天ぷらお料理「花形」▼愛知県　㈲東海スポーツフィールド　長江政則　安藤佳未　高橋淳子　伊藤美和　梅澤真弓　芥田縁　懸山あすか　匿名希望▼三重県　吉井和美　岡田夏海▼京都府　髙橋孝子　下川美和子　楫野昌美▼大阪府　池本和子　中辻安紀子▼兵庫県　柳川京子　吉田崇規匿名希望▼奈良県　宮崎新嗣▼和歌山県　谷祐輝▼鳥取県　尾崎由佳▼島根県　川原▼広島県大源洋治▼香川県　山本エリ▼愛媛県　新宮公民館▼鹿児島県　江口英子▼沖縄県　ホシザキ沖縄㈱▼無記名＝24件

〈一般寄贈〉 9月21日～10月20日

▼北海道　道藤信代　根塚成子▼宮城県　佐藤慶子　星昭一▼山形県　船山志保▼福島県　齋藤久子　福島県北砕石販売協同組合▼茨城県九嶋桂子　神栖市社会福祉協議会　nejikoにゃ～▼栃木県　木村佳代　大和リース㈱栃木二宮デポ・関東工場　佐藤江理▼群馬県　学童たけのこ　古井戸玲子　久保田ふさ江▼埼玉県　ホンダ開発㈱　栗原三郎　藪陽一　渋沢正治　大渡歯科　堤美紀▼千葉県　廣瀬茂雄　上山能子▼東京都　グリーンホスピタリティフードサービス㈱　幸仁クリニックデイケア　竹井彰　味の中華綿徳　ヤマト運輸労組新東京支部青年部三上正昭　高沢健　仁神幸江　成田妙子　㈱文里　ひまわり'97　三井住友銀行三軒茶屋支店　寺田真人　青山志げ子　匿名希望　㈱エス・ケイブッカーズ　㈱建築構造センター　㈱三恒　㈱大塚商会社長室環境・社会貢献課　塩野公認会計士事務所　原　全国共済農業協同組合連合会全国本部　太刀川忠良　IHG・ANAホテルズ労組連合会　J&J愛をささやく　安積直江　市川佳世子　水ing㈱　野口早苗▼神奈川県　佐藤和香子　阿部千栄子　合同会社ガイヤイールド　松田要　石黒初枝　河内眞生子　新倉一明・みちこ▼新潟県　ひまわりクラブ　歌代忠秀　佐野節子　地域密着型複合施設わしま▼山梨県　堀口香代子▼長野県　岩下晴美　宮坂梨奈▼岐阜県　奥原たかし　北川幸子▼静岡県　沖佳▼愛知県　山崎理沙　岡田知子　松井哲男　損害保険ジャパン日本興亜㈱中部業務部鈴木亜友巳　森博美▼三重県　殿林千鈴▼京都府　澤田佳代　長谷川なおみ　㈱ホンダ販売山本　西田恵子▼大阪府　金城敦雄　唐谷裕子深坂仁雄　山本詢子　匿名希望▼兵庫県　コープEARTHくらぶ北鈴ラッキーノース　佐野絵里奈　森川由美▼奈良県　堀田幸代▼和歌山県白木真紀▼島根県　門脇早苗▼岡山県　鳥越多美子　曽根小学校▼広島県　㈱七護エステート大川智恵　杉本郁花▼徳島県　大石拓吾▼香川県　古林地恵▼福岡県　NTTファイナンス㈱おまとめ請求センター▼佐賀県　杉山照志▼大分県　嶋﨑光平　井上義雄▼宮崎県　九州労働金庫労組宮崎支部▼鹿児島県　上園浩二　薩摩川内市社会福祉協議会樋脇支所▼　神田▼無記名＝34件

〈友愛援助申し込み〉10月1日～10月31日

▼北海道　中央小（札幌市中央区）　士別南中（士別市）▼岩手県　一関清明支援学校（一関市）　千厩小（一関市）　星山小（紫波町）▼宮城県　大倉小（仙台市青葉区）　六郷小（仙台市若林区）▼秋田県　十和田高（鹿角市）　鳥海小（由利本荘市）　下岩川小（三種町）▼福島県　下川崎小（福島市）▼群馬県　西小（板倉町）▼埼玉県　中央小（行田市）▼東京都堀江第二保育園（江戸川区）▼神奈川県　平和学園小（茅ヶ崎市）▼新潟県　飯小（上越市）▼石川県　中島小（川北町）▼長野県　ドンボスコ保育園（松本市）▼岐阜県　上之郷中（御嵩町）▼静岡県　静岡西高（静岡市葵区）▼愛知県　大杉小（名古屋市北区）　大和南小（一宮市）　東小（日進市）▼三重県　鈴鹿工業高専（鈴鹿市）▼滋賀県　能登川北小（東近江市）▼兵庫県　春日部小（丹波市）▼岡山県　馬屋上小（岡山市北区）　城北保育園（津山市）　新庄小（新庄村）　吉備高原希望中（吉備中央町）▼福岡県　今任小（大任町）▼長崎県　西諫早中（諫早市）▼熊本県　佐敷中（芦北町）

〈友愛援助申し込み・台風大雨被害分〉10月1日～10月31日

▼愛媛県　認定こども園泉幼稚園（新居浜市）

大台達成校

10月

戸田第二小	埼玉県戸田市	7,008,432
西須磨小	神戸市須磨区	7,012,928
野口小	兵庫県加古川市	6,027,336
横路小	広島県呉市	6,078,603
片柳小	さいたま市見沼区	5,013,060
高椋小	福井県坂井市	5,026,425
山田南小	岩手県山田町	4,013,770
西前小	横浜市西区	4,012,774
初声小	神奈川県三浦市	4,033,311
郡津小	大阪府交野市	4,010,739
新光小	札幌市北区	3,020,640
古川第三小	宮城県大崎市	3,004,531
板橋第四小	東京都板橋区	3,005,854
城南小	三重県桑名市	3,000,309
八郷小	三重県四日市市	3,034,690
立岩小	福岡県飯塚市	3,007,093
高田小	岩手県陸前高田市	2,057,354
中央小	埼玉県川越市	2,021,312
鶴瀬小	埼玉県富士見市	2,005,041
江南南小	埼玉県熊谷市	2,000,287
西方小	埼玉県越谷市	2,007,617
里小	埼玉県川口市	2,027,314
新郷小	埼玉県川口市	2,022,865
藤心小	千葉県柏市	2,016,799
汐入小	神奈川県横須賀市	2,003,710
石津小	岐阜県海津市	2,017,997
御南小	岡山市北区	2,007,054
津田小	徳島県徳島市	2,000,542
浅川小	北九州市八幡西区	2,015,005
志井小	北九州市小倉南区	2,000,378
沼ノ端小	北海道苫小牧市	1,007,093
七ツ森小	岩手県雫石町	1,013,991
山木屋中	福島県川俣町	1,028,671
双葉中	福島県いわき市	1,162,383
宝木小	宇都宮市	1,012,242
豊秋小	群馬県渋川市	1,006,034
杉戸白百合幼稚園	埼玉県杉戸町	1,008,023
幸松小	埼玉県春日部市	1,010,696
細田小	東京都葛飾区	1,009,757
旭小	神奈川県三浦市	1,010,717
御津南部小	愛知県豊川市	1,057,801
東小	大阪府熊取町	1,005,818
潮見小	兵庫県芦屋市	1,005,464
福田幼稚園	岡山市南区	1,013,406